

研 究 テ ー マ	在宅療養促進のための訪問看護のあり方に関する研究 分担研究:通常の(老人)訪問看護以外の訪問看護利用に関する調査
研 究 目 的	診療報酬及び介護報酬における保険適用外訪問看護の実施、およびその他利用料による訪問看護の実態把握
研 究 方 法	以下の3段階を経て、調査、分析、検討を実施した 1. 有償訪問看護の実施状況および決算状況に関する調査 2. 1.の結果より、有償訪問看護の提供実態に関する調査 3. 2.の結果より、有償訪問看護の実施状況に関するグループヒヤリング
結 果 及 び 考 察	1. 以下の結果が明らかになった 1) 有償訪問看護利用者は利用期間が短く、障害の程度の重い者が多かった 2) 保険サービスに追加的に利用する者で85%を占めた 3) 平均利用回数は月3.3回で1回のみ利用者で51%を占めた 4) 目的は「医療処置などの頻回訪問」「介護給付を超えるニーズ」が30%と多かった 5) 取決めの範囲や取決め方法には差異があった 2. 成果として、訪問看護需要とそれに見合った提供システムの検討資料として整理され、潜在的なものを含む訪問看護需要やそれに対応する訪問看護師の役割や教育内容の検討に活用できる
研 究 助 成 金 名	平成16年度 厚生労働科学研究費補助金

研 究 テ ー マ	在宅療養促進のための訪問看護のあり方に関する研究 分担研究：退院調整看護師養成プログラム作成
研 究 目 的	入院中の患者が在宅療養に移行しても必要な看護が継続して提供されるよう、総合的な支援機能を持つ「退院調整看護師」養成プログラムを作成し、退院調整看護師の養成と配置を促進すること
研 究 方 法	専門家で構成された検討委員会にて検討し、退院調整はケアマネジメントの方法論を適用し、ケアマネジメントの技法を本研究の概念枠組みとした
結 果 及 び 考 察	<p>1. プログラムは以下の内容となった</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護師が行う退院調整の特徴、機能と役割、訪問看護師との連携の効果を強調し、基本的事例をもちいて退院調整のプロセスを丁寧に展開し、さらには病院内での連携システム作りについても学ぶ</li> <li>2) プログラムの設定期間は、講義＋演習が4日間、臨床実習を 10 日間程度とし、実習後のフォローアップ研修を1日設定した</li> </ol> <p>2. 成果として、プログラムが基準化されたことで、研修事業で広く活用されることが期待でき、退院調整看護師の質の向上に貢献するとともに、医療依存度の高い患者・家族が安心して在宅療養へ移行する支援体制の構築への第一歩となる</p>
研 究 助 成 金 名	平成16年度 厚生労働科学研究費補助金